

野生動物保護と国際理解教育

川口 芳矢

横浜市立よこはま動物園

2009年3月まで2年間休職して野生チンパンジーの生息地で活動する経験を得た。そこではチンパンジーの生態を観察できただけでなく、生息地周辺の人々の生活を直接見られたことが大きな収穫であった。動物園で野生動物保護教育や環境教育を実施する際、動物や自然環境だけでなくその周辺で暮らす人々との関連を踏まえることが必要ではないかと感じた。そこで、復職後の2009年8月に「チンパンジー宿題教室」と題した小学校高学年を対象に実施した各回事前申し込み制のプログラムの中で、「チンパンジーの森の周りで暮らす人々の生活体験」というテーマの回を、よこはま、野毛山両動物園で合計2回設けた。これは、チンパンジーの観察を通してチンパンジーの特徴や生態、生息地などを学ぶ『チンパンジーってどんな動物?』、参加者とチンパンジー、そしてその周辺で暮らす人々の一日の時間配分からみる生活の違いを知る『比べてみよう、みんなの一日』、食事メニューや調理方法を通して暮らしの違いを深く知る『お昼ごはんから考える、くらしの違い』、それぞれの立場から見えてくる問題や解決方法を考える『なりきり劇場 私の言い分、みんなの言い分』の4つの課題から成る。参加者の反応は概ね良好であった。遠い国のことで自分との関係性をなかなか見いだせないと言った参加者が、最後にはハッと気付く表情を見せたことが非常に印象的であった。動物園が地球規模の環境問題を扱う上で、動物だけでなくヒトを絡めた国際理解教育を含めたことで、より理解が深まったと思われる。